

VIII 宮崎県小・中学校特別支援教育研究会と
宮崎県特別支援学校教育研究会の活動報告

宮崎県小・中学校特別支援教育研究部会

本研究会は、県内の小・中学校に設置された特別支援学級及び通級指導教室が所属する県内 11 地区の研究會（以下、「各地区特別支援特研」と記す。）の連合体である。

1 研究主題（テーマ）

「教育的ニーズに応える特別支援教育の在り方について」

2 主な研究・活動の内容

(1) 年間活動報告

- ① 第1回理事会の書面による開催・書面による決議（R2年6月～7月）
- ② 関係団体への負担金納入完了（R2年12月）
- ③ 第2回理事会の開催、研究集録『むすび』の発行（R3年2月18日）
- ④ 「全特協107・108・109号」（全国特別支援学級・通級指導教室設置学校長協会会報）の配付
- ⑤ 九州地区情緒障害教育研究会 宮崎大会発表資料配付

3 主な研究成果

(1) 成果

- コロナ渦の中、様々な大会や会議などが中止または書面で行われたが、多くの協力のもと工夫をしながら活動を行うことができた。
- 名簿作成や県外の研究会案内、会誌などの配付等を、各地区担任理事の協力を得ながら行うことができた。負担金についても、すべての地区特研から完納され、関係団体へ納付することができた。
- 令和2年度九州地区情緒障害教育研究会宮崎大会は感染拡大防止のため、中止せざるを得なくなったが、発表資料の配付により研究の成果を伝える場をもつことができた。
- 小中一貫校が年々増えているため、負担金の集金の在り方については、小、中別2校扱いとして集金した。冊子、文書等は2校分配付している。

(2) 課題

- 各地区特研や障がい種別研究会から多くの協力を得られたが、活動推進に対しては本会から十分な支援を行うことができたとはいえない。
- 各地区の特別支援学級の設置校数、学級数の正確な数の把握のため、県教育庁特別支援教育課との連携が必要である。
- 集金に関して、請求書等の作り直しや再発行等、各地区の理事、担当の連絡、事務手続きに負担をかけた。本年度形式、集金の手順等を記録として残し、次年度のスムーズな会計作業へとつなげていきたい。
- 研究集録を冊子として作成しているので、各学校での活用を呼びかけたい。
- 今後研究収録の作成の必要性について話し合いを行っていく必要がある。

令和2年度 宮崎県特別支援学校教育研究会

1 組織

本会は、県内の特別支援学校によって組織され、職員の資質向上と特別支援教育の振興を図ることを目的とし、10部会で運営されている。

2 各部会の活動状況

(1) 教務主任部会

第1回を7月に清武せいりゅう支援学校で開催した。年2回実施する教務主任部会の会場校を学校番号順に行うことが承認された。主な議題は、新型コロナウイルス感染症についての対応が多く検討された。第2回は、12月に明星視覚支援学校で実施する予定である。令和3年度の教育課程についての共通理解が主な議題になるとと思われる。

(2) 生徒指導主事部会

今年度は、年2回の部会を計画した。第1回では5月に開催の予定だったが、新型コロナウイルス感染症の影響により令和2年12月10日に延期した。部会ができない間はミライム等を活用して各校の児童生徒指導上の課題や情報共有を行い、意見や情報を集約した。第2回は、令和3年1月29日に実施予定である。各校で情報交換することにより、課題解決に向けての参考となった。今後も、ネット社会や性の多様性により様々な生徒指導上の課題が生じることが予想されるため、本部会での連携を図り、課題解決に努めていきたい。

(3) 保健主事・養護教諭部会

本年度は合同部会が中止となった。合同部会では、「発達障がいのある児童生徒への対応（仮）」というテーマで講話していただく予定であったが次年度以降への持ち越しとなった。協議の中心であった、新型コロナウイルス感染症に関する各校の取組については協議及び情報の収集ができた。新型コロナウイルス感染症に関わる学校の対応はしばらくの間、継続する可能性が高いと考える。今後も各校の課題や取組を共有し、研修等を重ね、学校保健の充実に努めていきたい。

(4) 進路指導主事部会

本部会は、県立学校特別支援学校の進路指導主事及び宮崎県特別支援学校教育研究会理事（部会長）で構成されている。本年度の部会は、新型コロナウイルス感染症の影響から、2度延期になっている。現在、12月22日に都城きりしま支援学校で第1回部会の開催を予定している。各校の進路指導の取組について情報交換を行い、実習の成果や課題などについて協議を行う計画である。第2回は、各校の進路状況や進路指導上の課題等について情報交換を行い、次年度に役立てたい。

(5) 栄養教諭・栄養職員部会

本年度の栄養教諭部会は、第1回部会を8月21日に延岡しろやま支援学校で計画していたが、新型コロナウイルス感染症拡大のため、中止となった。そのため、ミライムにて、各校の課題を共有した。今後は、新しい生活様式に即した協議の在り方として、ZOOMを使ったWEB会議を計画したいと考えている。今後も各校の課題や取組を共有し、安全・安心な給食運営と食育の充実に努めていきたい。

(6) 美術科代表者部会

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、例年美術館で開催していた特別支援学校アート展は中止となったが、全国特別支援学校文化祭作品展への作品選出のため、各学校で作品数を絞った形で審査会のみを行った。会場も教弘会館を使用し、部門ごとに部屋を分けて審査できるよう工夫した。また、アート展の代替案として今年度の12月から3月の期間で、「特別支援学校アート展 ON-LINE」として各学校のホームページを活用した作品鑑賞の場を設定した。

(7) 音楽科代表者部会

音楽科代表者部会では、年2回各学校輪番制で公開授業を行っている。今年度はコロナ禍の影響もあり、公開授業を行うことができなかったが、各学校の音楽代表者が集まり、第1回の部会を明星視覚支援学校で行った。令和4年度九州音楽教育研究大会宮崎大会について、音楽科代表者部会の今後の計画について協議した。第2回の部会を1月に明星視覚支援学校で行う予定である。

(8) 保健体育科代表者部会

本年度は3回の会を計画した。研究は、子供たちが体育学習で得たものを生涯にわたっていつでも、どこでも共有できるようにする方法について検討を行ってきた。そこで、体づくり実践集「ひなたプログラム」の試作動画をインスタグラムで配信し、活用の可能性について議論することができた。次回は、次年度の発表校都城きりしま支援学校を部会全体でサポートできるよう、研究発表の進め方や授業の構成・展開について協議を行う。また、小・中・高12年間を見通した、つながりのある単元計画について障がい種の多様性を踏まえながら具体的に協議する予定である。

(9) 家庭科代表者部会

本年度は「主体的・対話的で深い学びの実現を目指す家庭科教育とは」という研修主題の3年目であり、住生活に関する分野を中心とした研修を2回計画していた。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の影響により、アンケートや文書でのやりとりで、各学校の対応等を共通理解することで、本年度の研修に代えた。アンケート結果からは、調理実習のあり方や、密にならないことを考慮したグループ学習など、各学校が対応に苦慮していることがうかがえた。

(10) 自立活動代表者部会

本年度は、12月にみなみのかぜ支援学校にて、清武せいりゅう支援学校の鮫島指導教諭から自立活動「流れ図」の利用について講義をしていただいた。その後3つの班に分かれて「流れ図」を使った演習や発表を行った。また、事前アンケートに基づき、各学校での現状や課題等について確認を行い、参考資料・書籍等の展示により情報共有を行った。最後に部会長より「自立活動と主体的・対話的で深い学び」についての講話をいただいた。部会員全員が出席し、大変有意義な会となった。